

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	治山関連事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	産業経済部	課等名	林務課		包含する細々目	1	6	2	2	22	2	2,000
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり											
施策	51 自然の保全											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間		年度～	年度	関連計画条例等						森林・林業基本法、伊那谷地域森林計画、飯田市森林整備計画、

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	森林	治山事業要望箇所数(箇所)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			5		5	
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	保全、再生される	治山事業実施箇所数(箇所)	18目標	最終目標		
			2			
			18実績	19目標	3	↑
			23目標	23実績		最終目標達成年度
			18目標	最終目標		
		18実績	19目標		↑	
		23目標	23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	森林、道路、人家等を守るため、県単・公共治山事業で実施されなかった箇所をし単独事業で補っていく	伊賀良、千栄の2箇所 伊賀良土留め工及び丸太橋補修 毛呂窪山腹工	箇所	2
	18年度の実績			
	19年度計画	南信濃、上村、旧飯田市内各1箇所	箇所	3

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	2,000	2,000
事業費計(A)	2,000	2,000	
人件費	正規職員所要時間	18年度 164	19年度
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	586	0
	トータルコストA+B	2,586	2,000

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	保全、再生される。	森林面積	現状値	55549	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	55540
	崩壊地の面積		現状値	779.77	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	765	

この事業を開始したきっかけ 森林及び市民の生活環境を保全するため県単や公共で要望した治山事業で採択されない小規模事業を市単独事業で実施してきた	事業を取り巻く状況の変化 市民からの要望は多数寄せられるが、決められた予算の中での事業の実施は難しい。また、県・国の予算が削減される中、益々要望箇所が増えることが予想される。	事業に対する市民や議会の意見 市民の生活に直結しているため、関心度は高い
--	--	---

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) 結びつく (その理由) 自然の保全、再生が図られ市民生活の安全を確保できる	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) 余地がある (その理由) 事業を実施することにより自然の保全再生及び市民生活の安全確保が推進される
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) 必要性がある (その理由) 市町村合併により森林面積が倍となり保全すべき森林が増加している		廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) 影響あり (その理由) 事業を中止することにより自然の保全再生及び市民生活の安全確保が推進できなくなる
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) 必要性がない (その理由) 市民の安全、自然の保全再生に欠かせない		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む) (評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) 直轄治山環境整備事業 直轄治山事業は松川入りに限られた地域での国・県の直轄治山事業を実施してもらうために市単独予算で事業を応援するものである。一方治山関連事業は、飯田市全域での県単、公共事業で採択されない小規模治山事業を市単独予算で実施するものであり、事業の性格上統合することは不可能である
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) 必要ある (その理由) 自然の保全、再生及び市民生活の安全をすることは市の重要な役割である		効率性 評価 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？ (評価) 不可能 (その理由) 事業コストが上昇しておりこれ以上事業費を削減すれば事業実施は不可能である
		公平性 評価 受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) 妥当である (受益者とその理由) 市民全体に恩恵がある	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	実施年度 <input type="checkbox"/> 具体化	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 今後も県単、公共による事業実施を推進していくが、県、国の予算が削減されている中、市単独治山事業実施要望は増加していくことが懸念される。県等とより綿密な協議をしていく必要がある
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	県等には要望を出してあるが、今後も厳しい状況下にある	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がある	(2) 必要性な場合の実施事由	2- その他、必要が生じたとき
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	工事に木材を使用する等、自然にやさしい取組に心がけた。		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	